

実施学年	3年	実施教科 (科目)	国語	実施日	平成24年10月5日
単元名	物語の感想をまとめよう『ちいちゃんのかげおくり』				
本時の内容 (項目)	戦争の凄惨さについて、映像資料を通して知ることができる。				
本時の目標	「ちいちゃんのかげおくり」を読んで、初発の感想を交流し、学習課題「場面のうつりかわりをとらえて、物語の感想をまとめよう」を設定して学習計画を立てる。				
授業場所	教室	ICT活用時の 授業形態	一斉学習・個別学習・グループ学習		
ICT活用場面	導入・展開・まとめ他( )	ICTの主な 活用者	教師・生徒		
活用するICT 機器	電子黒板 インターネット				
ICTを活用する 目的・ねらい・予想される 効果	本単元に登場する人物の心情や、場面を読み深めていくためには、戦争の知識やその時代の背景、戦時中の過酷さを知ることが必要である。児童には、戦争体験が無いため、焼夷弾の威力や戦争で焼け野原になった町の様子などはわからない。そのため、当時の様子を伝えるために映像資料を用いる。				
児童生徒の情報活用能力を 育てる指導場面・指導内容					
利用するコン テンツ名・サ イト等	Youtubeより 「焼夷弾の威力」 <a href="http://www.youtube.com/watch?v=zpzQ8cJsQIY">http://www.youtube.com/watch?v=zpzQ8cJsQIY</a> 「東京大空襲ー深川の惨劇」 <a href="http://www.youtube.com/watch?v=WABD67k0lgo">http://www.youtube.com/watch?v=WABD67k0lgo</a> IPA「教育用画像素材集サイト」 <a href="http://www2.edu.ipa.go.jp/gz/">http://www2.edu.ipa.go.jp/gz/</a>				
参考にしたサ イト・文献 等					
事前の準備	・電子黒板を使って、すぐに動画を流すことができるようにセッティングしておく。				

指導計画（授業の展開）	<p>1 『ちいちゃんのかげおくり』を音読する。 教師が範読し、新出漢字や語句の解説をする。 全体で音読をする。</p> <p>2 通読して感じたことや当時の様子について話しあう。 初発の感想を交流する。</p> <p>3 ICT で戦時中の様子について知る。 ・映像資料『焼夷弾の威力』 ・映像資料『東京大空襲』 ・映像資料『東京大空襲－深川の惨劇』</p> <p>4 まとめ 感想を交流 「ちいちゃんはどんな時代に生きていたか」 次時以降の学習計画をたて、見通しをもつ。</p>	<p>（※情報モラルの指導内容）</p> <p>初発の感想なので感じたことを自由に書かせる。 ※映像資料をつかう意図を明確にして、児童が学習に活かせるものにする。</p> <p>活用前後で児童の読みとりに変化を持たせるようにする。</p>
ICT を活用した授業時の教師側（指導上）の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦争資料には、子どもの目には触れさせたくない映像もあるため、留意する。</li> <li>・出典元を必ず明記する。</li> <li>・コンテンツ利用について、著作権を確認し、個人情報保護や肖像権を遵守する。</li> <li>・ICT を活用するねらいを明確にする（ただ映像資料を流すだけに留めない</li> </ul>	
ICT を活用した授業時の児童生徒の反応	<p>ICT を活用することにより、児童の意欲化を図ることができた。焼夷弾によってあっという間に家が燃えていく様子に言葉を失っていた。また、戦争体験者の話を聞くことによって、空襲から必死に逃げる人々の様子や、当時の証言を聞いて戦争の怖さを感想で語る児童もいた。中には、自分たちの生活がいかに恵まれて、幸せであることを認識する児童もいた。</p>	
ICT を活用した授業後の評価（実践の手応え）	<p>戦後 70 年以上がすぎ、多くの人が「戦争」というものの恐ろしさを体感したことがない。そのため、児童たちの初発の感想の中には、「はなればなれになってしまったちいちゃんがかわいそう」や「空の上でみんなと会えたからよかった」などと他人事のように考える子が多かった。ICT 活用により戦争や当時の様子・背景などについて、具体的に知ることができ、戦時中の様子や残酷さをふまえ、ひとりぼっちになってしまった「ちいちゃん」への思いを深めることができた。</p>	
今後の課題	<p>戦争に関する知識がないため、戦争について考えるためには、具体的に様子をイメージできる資料が必要となる。そのため、写真などの他に、ICT で視覚的・聴覚的に認識できる資料を厳選する必要がある。また、ただ映像資料を見せるだけでなく、具体物の併用をすることにより、より効果が得られると考えられる。</p> <p>情報モラルなど正しい ICT 活用法については、実際に児童が動画を検索していないため、あまり触れていないが、出典元の明記や、著作権の確認など、利用していく上で随時確認するようにしたい。</p>	

※情報モラルを指導したときは、その指導事項及び指導内容を記入する。